

キャラクター名  
矢口 朱

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ウロボロス	ワークス	UGNエーエージェントC	カバー	司書
オプション	ノイマン	年齢	15	性別	女
覚醒	無知	衝動	嫌悪	初期侵食率	34 %
出自	天涯孤独	経験	UGNへの畏怖	邂逅	同志

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	1	0	0			1	行動値	8
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	8
精神	3	1	2			6	戦闘移動	13
社会	3	0	1			4	全力移動	26

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	10		交渉		
回避			知覚			意志	5	1	調達	5	
運転：			芸術：			知識：出版	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
集中力過剰		0				《原初の赤：生き字引》+《トランキリティ》
		11r+6				情報収集：侵食5、C値10、HP5点消費
→侵食率60		12r+6				
→侵食率80		13r+6				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
医療トランク	
思い出の一品	
アクセサリ	
コネ：手配師	
携帯電話	
制服	
フォーマル	

合計装甲： 0 合計回避： 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
D：優しい奇跡	P	N		
藤宮 幽斗	P 慕情	N 偏愛		
坂塚 恭吾	P 純愛	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P： 18 残り財産P： 5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果： 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果： コスト分のHPで復活								
生き字引	1	1	メジャー	至近	自身	《意志》		
効果： 情報収集判定、さらに判定ダイス+LV個								
トランキリティ	3	3	メジャー/リアクション	至近	自身	《精神》		
効果： 判定ダイス+[LV+1]個、ただしHP5点を消費								
リフレックス：ウロボロス	2	2	リアクション			シンドローム		
効果： クリティカル値-LV（下限7）								
浄玻璃の鏡	1	1	リアクション	至近	自身	《RC》		
効果： ドッジを行う								
原初の白：氷壁	1	7	オート	至近	自身	《RC》	80% 未行動行動減	
効果： 「射程：視界」のキャラクターが行った攻撃の命中値と対決→勝利した場合攻撃を失敗させる								
ディヴィジョン	2	1d	オート	視界	単体		LV/シナリオ	
効果： 対象が受けるHPダメージを半分（端数切捨て）にし、この方法で軽減したのと同じだけのHPを失う								
原初の黄：不死者の恩寵	2	5/+3	クリンナップ	至近	自身			
効果： HPを[ (LV+2) D+ 【肉体】 ]点回復（戦闘中でない場合、制限[1/シーン]）								
忘れていた過去（封印の錠前）	★							
効果： [尽力/後悔]：バックトラック時に侵食率を10%引き下げる								
ドクタードリトル	★		メジャー		自身	自動(交渉)		
効果： あらゆる言語を使いこなし、動物とすら意思疎通を行える								
完全演技	★				自身			
効果： (架空の) 個人の人格を模倣する								
イージーフェイカー：快適室温	★	+1	メジャー		自身	自動		
効果： シーン内の気温を任意に調節								
道化の出し物	★	1	オート		自身	自動(RC)		
効果： エフェクトによって発生する事象の外見だけを他のエフェクトに偽装する								
禁じられし業	★	3		視界	単体		LV/シナリオ	
効果： 対象が宣言したイージーエフェクトひとつを打ち消す								

矢口 朱（やぐち あけみ）  
中の人：おぼろ アバター：黒谷ヤマメ

自らが"目覚めた"きっかけを思い出し、ほんのちよっぴり強くなったUGNエーエージェントの少女。  
"自分を戒めることを忘れたくないから"という理由でコードネームの変更を申し出た（GM権限で却下してもいいよ）り、司書の仕事がないときに坂塚 恭吾と一緒に過ごすことがとても（←重要）多くなったり、なんだか肌つやが妙によくなったり（※《麗しの容貌》です）した。それでものじゃろりは忘れない。

かつて支部長の座を藤宮 幽斗に譲った原因も、忘れていた過去にあった。  
身に迫った問題から目を逸らし、逃げ出したことへの悔悟が知らずのうちに自分を躊躇させたのだ。  
"あの時逃げ出した私には、できるはずがない"と。それは正しかったようにも思える。  
…でも、全てを思い出した今も。支部長の座に就く気は不思議と起きない。  
何かが怖いわけじゃない。ただ、"幽斗なら大丈夫"その確信だけがいった。  
「…誰かに縋りたいだけ、なのかな」  
もしそうだったとしても、否定はしない。誰かに寄り縋ってもいい、だからその分だけ支えてあげよう。  
誰も一人きりで生きているわけではないのだから。頼り、頼られる …絆が、そこにあるのだから。

